

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：工業技術基礎	単 位 数	2
履修学年	1 学年	使用教科書	工業技術基礎（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	・用具 ・工具の使い方 ・課題内容 ・作品の出来	・授業に取り組む姿勢 ・レポート	・出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・レポート
	出席状況・レポートの提出期限を守られているか、授業には意欲的に取り組んでいるか、創造的・実践的・安全に対する態度を身につけているか等の内容を総合的に判断する。課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容 ※4グループの各パートローション実習	評 価 基 準
1 学 期	4	27	1. 施工実習	・木工実習①（墨付・鋸引） （長ぼぞ差しの加工）	【知識・技能】 各実習内容に関する基礎的な知識・技術を身につけている。
	5		2. 測量実習	・距離・平板測量（平坦地の距離測量） （平板測量：放射法）	
	6		3. 知的財産権	・知的財産教育①（基本とトレーニング）	
	7		4. 図 学	・住宅外観パースの着色	
2 学 期	9	29	1. 施工実習	・木工実習②（腰掛蟻継）	【思考・判断・表現】 諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断・創意工夫し表現している。
	10		2. 測量実習	・平板測量②（進測法）	
	11		3. 知的財産権	・ものづくり、図面作成の方法	
	12		4. 造 形	・切妻・寄棟の模型製作	
3 学 期	1	14	1. 施工実習	・木工実習③（鉋・ノミの手入れと刃砥ぎ）	【主体的な態度】 実際活用しようとする創造力や実践的な態度を身につけている。
	2		2. 測量実習	・水準測量（機器取扱い・標尺の読み方）	
	3		3. CAD実習	・CADによる木造平面図の作成	
			4. 造 形	・住宅の平面計画、ペーパークラフト作成	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築技術製図	単 位 数	2
履修学年	1 学年	使用教科書	建築設計製図（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価 方 法	- 授業中の作図態度 - 作品や課題の提出状況	- 授業中の作図態度 - 作品や課題の提出状況	- 授業中の作図態度 - 作品や課題の提出状況
	授業への取り組み方、製図作品の表現力（正確・丁寧さ）、課題の期限内提出状況、出席状況等を総合的に判断して評価する。課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価 基 準
1 学 期	4	14	1. 製図用具の使い方	製図機器用具の正しい使用方法を学習する。	【知識・理解】 正しい使用方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 的確な種類を判断して表現している 【主体的な態度】 意欲的に作図をしようとしている。
	5		2. 線の練習	製図に使用する線の種類を課題を通して学習する。	
	6	14	3. 文字の練習	製図に使用する文字の種類を課題を通して学習する。	
	7		4. 図面表示の基本	製図規約、建築製図通則を課題を通して学習する。	
2 学 期	9	14	5. 木構造の設計製図	①平屋建専用住宅設計図 ・配置図 1/100	
	10			②平屋建専用住宅設計図 ・平面図 1/10	
	11	14	5. 木構造の設計製図	③平屋建専用住宅設計図 ・立面図 1/100	
	12			④平屋建専用住宅設計図 ・断面図 1/100	
3 学 期	1 2 3	14	5. 木構造の設計製図	⑤平屋建専用住宅設計図 ・平面・カナバカリ図 1/20 ⑥平屋建専用住宅設計図 ・各伏図・軸組図 1/100	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	工業情報数理	単 位 数	2
履修学年	1 学年	使用教科書	工業情報数理（実教出版）	履修年度	令和 7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価基準	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価方法	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力及び出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力及び出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力及び出席状況 ・定期考査
	授業への取り組み方、小テスト、定期考査、提出物、発表力、出席状況等を総合的に判断して評価する。課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	8	第1章 産業社会と情報技術	①コンピュータの構成と特徴 ②情報化の進展と産業社会 ③情報化社会の権利とモラル ④情報のセキュリティ管理	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解している。 【思考・判断・表現】 問題解決方法を適切に判断する能力を身につけている 【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
	5				
	6	10	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	①コンピュータの基本操作 ②ソフトウェアの基礎 ③アプリケーションソフトウェア	
	7	7	第3章 プログラミングの基礎	①プログラム言語 ②プログラムの作り方 ③流れ図とアルゴリズム	
2 学 期	9	5	第7章 コンピュータネットワーク	①コンピュータネットワークの概要 ②コンピュータネットワークの通信技術	【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
	10	13	第8章 コンピュータ制御	①コンピュータ制御の概要 ②制御プログラミング ③組み込み技術	
	11				
	12	12	第9章 情報技術の活用	①マルチメディア ②情報の収集と活用 ③プレゼンテーション	
3 学 期	1	15	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア	⑨JW-CADの操作 1. JW-CADの解説及び操作 2. 住宅平面図の作成	
	2				
	3				

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築構造	単 位 数	2
履修学年	1 学年	使用教科書	建築構造(実教出版)	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 出席状況、定期考査	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 出席状況、定期考査	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 出席状況、定期考査
	建築構造に対する興味関心・意欲などを確認テスト、ノート提出、課題プリント提出により判断します。授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします。）以上を踏まえて、定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価 基 準
1 学 期	4 5	12	第1章 建築構造の あらまし	1. 建築構造の歴史的発達 2. 建築構造のなりたち 3. 建築構造の分類 4. 建築物に働く力 5. 関連する法規と規準	【知識・技能】 基礎的な知識や技術を習得している。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め適切に判断している。 【主体的な態度】 意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけようとしている。
	6 7	14	第2章 木構造	1. 構造の特徴と構造形式 2. 木材 3. 木材の接合 4. 基礎	
2 学 期	9 10	15	第2章 木構造	5. 軸組 ・土台・柱・桁・梁・耐力壁 6. 小屋組 ・和小屋組・洋小屋組 7. 床組	
	11 12	15		8. 階段 9. 開口部 10. 外部仕上げ ・屋根・軒天井・とい・外壁	
3 学 期	1 2 3	14	第2章 木構造	11. 内部仕上げ ・床・壁・天井・床の間 12. 木造枠組壁構法 ・特徴・構造材・躯体の構成	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築構造設計	単 位 数	2
履修学年	1 学年	使用教科書	建築構造設計（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査
	授業への取り組み方、小テスト、定期考査、提出物、発表力、出席状況、サブテキスト等を総合的に判断して評価する。 課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価 基 準
1 学 期	4	14	第1章 構造物に働く力	1. 建築物に働く力 ①いろいろな建築物 ②建築物に働く力	【知識・技能】 建築構造設計の知識はあるか。理解できている 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め適切に判断している 【主体的な態度】 意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけようとしている
	5			2. 力の基本 ①力	
2 学 期	6	14	第1章 構造物に働く力	2. 力の基本 ②力の合成と分解	
	7			③力の釣合い	
3 学 期	9	14	第1章 構造物に働く力	3. 構造物と荷重および外力 ①支点と節点 ②荷重および外力	
	10			4. 反力 ①反力 ②反力の求め方	
3 学 期	11	14	第1章 構造物に働く力	4. 反力 ①反力 ②反力の求め方	
	12			5. 安定・静定 ①構造物の安定・不安定 ②構造物の静定・不静定	
3 学 期	1	14	第1章 構造物に働く力	4. 反力 ②反力の求め方	
	2			5. 安定・静定 ①構造物の安定・不安定 ②構造物の静定・不静定	
3 学 期	3	14	第1章 構造物に働く力	5. 安定・静定 ①構造物の安定・不安定 ②構造物の静定・不静定	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	選択科目：建築構造	単 位 数	2
履修学年	2 学年	使用教科書	建築構造(実教出版)	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価規準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 定期考査	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 定期考査	授業中の取組状況 ノート・課題プリント 定期考査
	建築構造に対する興味関心・意欲などを確認テスト、ノート提出、課題プリント提出により判断します。授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします。）以上を踏まえて、定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。 課題については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	13	第3章 鉄筋コンクリート構造	1. 構造の特徴と構造形式 2. 鉄筋	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解している。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。 【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	5			3. コンクリート	
2 学 期	6	13		4. 基礎 5. 躯体 6. 仕上げ	
	7				
	9	16	第3章 鉄筋コンクリート構造	7. 壁式構造 8. プレストレスト コンクリート構造	
	10		第4章 鋼構造	1. 構造の特徴と構造形式 2. 鋼と鋼材 3. 鋼材の接合	
3 学 期	11	14	第4章 鋼構造	4. 基礎 5. 骨組 6. 仕上げ	
	12				
3 学 期	1	14	第4章 鋼構造	7. 軽量鋼構造と鋼管構造	
	2			8. 鉄骨鉄筋コンクリート構造	
	3				

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築計画	単 位 数	2
履修学年	2 学年	使用教科書	建築計画(実教出版)	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通し、建築物の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査
	建築計画に対する興味関心・意欲などを確認テスト，ノート提出，課題プリント提出により判断します。出席状況，授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします。以上を踏まえて，定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。 課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	13	第1章 建築と環境	1. 建築と環境の概要 2. 屋外環境と室内環境 3. 換気と通風	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解している。
	5			4. 伝熱と結露 ①熱貫流 5. 日照と日射 6. 採光と照明	
2 学 期	6	15	第1章 建築と環境	7. 色彩 8. 音響 ①遮音 ②吸音 ③騒音	【思考・判断・表現】 自ら思考を深め，適切に判断し，創意工夫する能力を身につけようとしている。 【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに，創造的，実践的な態度を身につけようとしている。
	7				
	9	7	第2章 住宅の計画	1. 住宅の意義 2. 住宅計画の進め方 ①企画・計画	
	10	7	第2章 住宅の計画	3. 全体計画 4. 各部の計画 ①共同的な空間 ②個人の生活空間	
3 学 期	11	13	第3章 各種建築物の計画		
	12				
3 学 期	1	15	第3章 各種建築物の計画	1. 集合住宅の計画 ①全体計画と各部の計画	
	2			2. 事務所の計画 ①全体計画と各部の計画	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	選択科目：建築構造設計	単 位 数	2
履修学年	2 学年	使用教科書	建築構造設計（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価規準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
評価方法	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み方 ・小テスト ・提出物 ・発表力 ・出席状況 ・定期考査
	授業への取り組み方、小テスト、定期考査、提出物、発表力、出席状況、サブテキスト等を総合的に判断して評価する。課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4 5	1 1	第2章 静定構造物の部材 に生じる力	1. 構造物に生ずる力 ①構造物に生じる力の種類 ②部材に生じる力の求め方 ③部材に生じる力の表し方	【知識・技能】 知識・技術を身につけ、計算能力・応用能力を活用している。 【思考・判断・表現】 解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断・創意工夫し表現する能力を身につけている。 【主体的な態度】 実際に活用しようとする創造力や実践的な態度を身につけている。
	6 7	1 1		2. 静定梁 ①単純梁 ②片持梁	
2 学 期	9 10	1 7	第2章 静定構造物の部材 に生じる力	②片持梁 3. 静定ラーメン ①片持梁系ラーメン	
	11 12	1 4		②単純梁系ラーメン ③3ピン式のラーメン	
3 学 期	1 2 3	1 7	第2章 静定構造物の部材 に生じる力	4. 静定トラス ①トラス部材に生じる力 ②節点法 ③切断法	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築施工	単 位 数	3
履修学年	2 学年	使用教科書	建築施工（実教出版）	履修年度	令和 7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業中の観察、ノート 課題プリント・定期考査	定期考査、課題プリント	授業中の観察、ノート 課題プリント・定期考査
	建築施工に対する興味関心・意欲などを確認テスト、ノート提出、課題プリント提出により判断します。 授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします）。 以上を踏まえて、定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。 課題については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4		第1章 建築施工のあらまし	1. 建築生産にたずさわる人々 ①建築生産者 ②技術者と技能者 2. 建築工事の流れ ①準備 ②躯体 ③仕上げ ④設備	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し実務的な技能を活用し、表現することができる。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。
	5	16	第2章 工事の準備	1. 地盤と敷地の調査・確認 ①地盤調査 ②敷地の調査 2. 仮設工事 ①計画 ②設備 ③測量 ④足場	
	6	18	第3章 地面から下の工事	1. 土工事および杭・地業工事の種類と流れ	
2 学 期	7	11	第3章 地面から下の工事	2. 土工事・山留め ①根切 ②山留め ③排水 3. 杭工事	【主体的な態度】 実際に活用するための創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	9	15	第4章 木構造の工事	1. 基礎 2. 在来工法の骨組 3. 枠組壁工法の躯体 4. 外部仕上げ 5. 内部仕上げ	
	10		第4章 木構造の工事	1. 基礎 2. 在来工法の骨組 3. 枠組壁工法の躯体 4. 外部仕上げ 5. 内部仕上げ	
	11	16	第5章 鉄筋コンクリート 構造の工事	1. 鉄筋コンクリート工事 2. 基礎	
3 学 期	12	14	第5章 鉄筋コンクリート 構造の工事	1. 鉄筋コンクリート工事 2. 基礎	
	1		第5章 鉄筋コンクリート 構造の工事	3. 躯体 ①配筋 ②型枠 ③コンクリート 4. 外部仕上げ 5. 内部仕上げ	
	2				
	3	15			

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築技術実習	単 位 数	2
履修学年	2 学年	使用教科書	建築実習 1・2（実教出版）	履修年度	令和 7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				

評価規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価方法	・用具と工具の使い方 ・課題内容 ・作品の出来	・授業に取り組む姿勢 ・レポート	・出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・レポート
10名程度の4班に分かれ、各班を1年間ローテーションで学習します。出席状況・レポートの内容と提出期限を守られているか、授業には意欲的に取り組んでいるか、創造的・実践的・安全に対する態度を身につけているか等の内容を総合的に判断する。課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。			

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	27	1. 施工実習	※4グループによる各パート ローテーション実習 ・水盛り遣り方	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し、実務的な技能を活用し、合理的に計画し、その技術を活用している。 【思考・判断・表現】 解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断・創意工夫し表現する能力を身につけている。 【主体的な態度】 実際に活用しようとする創造力や実践的な態度を身につけている。
	5		2. 測量実習	・水準測量①（敷地内の高低差測量）	
	7		3. 材料実験	・骨材のふるい分け試験と単位容積重量測定	
2 学 期	9	27	1. 施工実習	・木造の軸組み（外装・内装）	
	10		2. 測量実習	・水準測量②（昇降式・器高式） ・水準測量③（昇降式の実測）	
	12		3. 材料実験	・コンクリートスランプ試験 ・コンクリート・モルタル供試体製作	
3 学 期	1	16	1. 施工実習	・鉄骨実習（ガス・被覆アーク溶接）	
	2		2. 測量実習	・水準測量④（等高点の測設）	
	3		3. 材料実験	・モルタルのミハエリス（曲げ）試験 ・コンクリート・モルタルの圧縮試験	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築技術製図	単 位 数	2
履修学年	2 学年	使用教科書	建築設計製図(実教出版)	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価 方 法	授業中の作図態度 製図課題の提出状況	授業中の作図態度 製図課題の提出状況	授業中の作図態度 製図課題の提出状況
	①意欲的に取り組み、創造的・実践的な態度を身につけているか。 ②図面・内容等を理解し、正確・明瞭・迅速に表現しているか。 ③課題を提出しているか。(提出期限を厳守する) 以上を総合的に評価する。 ④課題及び報告書については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。 ⑤授業実習.docx、建築製図.docx また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4 5	14	第4章 木造の設計製図	1. 平屋建専用住宅設計図 ①配置図・平面図	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し実務的な技能を活用し、表現することができる。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。 【主体的な態度】 実際に活用するための創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	6 7	14		②立面図（2面）・断面図（1面）	
2 学 期	9 10	14	第4章 木造の設計製図	2. 2階建専用住宅設計図 ①配置図・平面図（1階・2階） ②立面図（2面）・断面図（2面）	
	11 12	14	自由設計（木造）	③断面詳細図 1. 平屋建専用住宅 ①エスキス	
3 学 期	1 2 3	14	自由設計（木造）	②配置図・平面図 ③立面図（2面） ④模型（1/100）	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：課題研究	単 位 数	3
履修学年	3 学年	使用教科書	自作教材	履修年度	令和 7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を目指す。				

	①知識・理解	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探求し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
評価方法	用具・工具の使い方・課題内容・作品の出来	授業に取り組む姿勢・レポート	出席状況・授業に取り組む姿勢・レポート・発表資料・発表会での態度
	出席状況・レポートの提出期限を守られているか、授業には意欲的に取り組んでいるか、創造的・実践的・安全に対する態度を身につけているか等の内容を総合的に判断する。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4 5 6 7	4 4	オリエンテーション 研究計画 調査 研究・製作	1. グループ編成 1. テーマ設定 2. 年間研究計画 1. 情報収集 2. 資料調達 3. 設計 1. 目標設定 2. 問題点把握 3. 問題点の解決方法検討 4. 解決方法実施と評価	【知識・技能】 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探求し、科学的な根拠に基づき創造的に解決することができる。
2 学 期	9 10 11 12	4 7	（1 学期からの続き） 研究発表準備	（1 学期からの続き） 1. 発表資料・論文作成 2. 発表計画・リハーサル	【主体的な態度】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展や社会貢献に主体的かつ協動的に取り組むことができる。
3 学 期	1 2 3	1 4	発表会 論文提出	1. 発表技術と発表マナー 1. 論文の体裁調整	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築技術実習	単 位 数	3
履修学年	3 学年	使用教科書	建築実習 1・2（実教出版）	履修年度	令和 7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価 方 法	用具・工具の使い方・課題内容・作品の出来	授業に取り組む姿勢・レポート	出席状況・授業に取り組む姿勢・レポート
	10名程度の4班に分かれ、各班を1年間ローテーションで学習します。出席状況・レポートの内容と提出期限を守られているか、授業には意欲的に取り組めているか、創造的・実践的・安全に対する態度を身につけているか等の内容を総合的に判断する。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	4 4	1. 施工実習 2. 測量実習 3. 施工実習	※4グループによる各パート ローテーション実習 ・ 仮設工事：単管・枠組み足場の組立・解体 ・ トランシット（TS）測量：据付・測角・測距 ・ 手書きとCADによる基礎伏図・根切り図の作成	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し実務的な技能を活用し、合理的に計画し、その技術を活用している。
	5				
	6				
	7				
2 学 期	9	4 7	1. 施工実習 2. 測量実習 3. 計画実習 4. 材料実習	・ 鉄筋工事：ベース・柱筋・梁筋の組立 ・ TSによる工事測量(基礎・仕上げ墨出し) ・ 日影曲線図作成・騒音試験 ・ 木材の圧縮試験・曲げ試験	【思考・判断・表現】 解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断・創意工夫し表現する能力を身につけている。
	10				
	11				
	12				
3 学 期	1	1 4	1. 施工実習 2. 積算実習 3. 計画実習	・ 型枠工事：柱・壁・梁・スラブ型枠の組立 ・ RC造躯体の積算 ・ 有効温度の測定・照度試験・空気調和設備実験	【主体的な態度】 実際に活用しようとする創造力や実践的な態度を身につけている。
	2				
	3				

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築技術製図	単 位 数	3
履修学年	3 学年	使用教科書	建築設計製図(実教出版)	履修年度	令和7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価規準	工業の各分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	工業の各分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
評価方法	授業中の作図態度 製図課題の提出状況	授業中の作図態度 製図課題の提出状況	授業中の作図態度 製図課題の提出状況
	①意欲的に取り組み、創造的・実践的な態度を身につけているか。 ②図面の内容等を理解し、正確・明瞭・迅速に表現しているか。 ③課題を全て提出しているか。(提出期限を厳守する) 以上を総合的に評価する。 ④課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。 また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学期	4	21	第5章 鉄筋コンクリート 造の設計製図	『店舗付事務所設計図』 〔課題1〕 階段詳細図の作図 縮尺1/30	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し実務的な技能を活用し、表現することができる。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。 【主体的な態度】 実際に活用するための創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	5			〔課題2〕 各伏図の作図 縮尺1/100	
	6	24		〔課題3〕 平面詳細図 縮尺1/50	
	7			〔課題4〕 ラーメン配筋図の作図縮尺1/30	
2 学期	9	24	卒業設計制作	課題『二級建築士設計課題』 ①配置図の作図 縮尺1/100	
	10			②1・2階平面図の作図 縮尺1/100	
	11	24		③立面・断面図の作図 縮尺1/100	
	12			④透視図(パース)の作図	
3 学期	1	12		⑤伏せ図・軸組図の作図 縮尺1/100	
	2			⑥表紙の作成	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	選択科目：建築計画	単 位 数	2
履修学年	3学年	使用教科書	建築計画（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通し、建築物の計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の計画について住空間の快適性やエネルギーを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	安全で快適な建築物を計画する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査	授業中の取組状況，出席状況，ノート・課題プリント，定期考査
	建築計画に対する興味関心・意欲などを確認テスト，ノート提出，課題プリント提出により判断します。出席状況，授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします。以上を踏まえて，定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4 5	16	第3章 各種建築物の計画	【事務所の計画】 ①事務所の意義②全体と各部の計画 ③防災・避難計画 【小学校の計画】 ①小学校の意義②全体と各部の計画 ④防災・避難計画	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解している。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。
	6 7	10	第4章 都市と地域の計画	①都市と都市計画 ②都市計画制度と都市計画表 ③建築と地域の計画とまちづくり	
2 学 期	9 10	18	第5章 建築設備の計画	①建築設備の概要 ②給排水・衛生設備 ③空気調和・換気設備 ④電気設備・防災設備・搬送設備	【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	11 12	14	第6章 建築の移り変わり	【日本の建築】 ①住宅建築 ②宗教建築 ③都市 【西洋の建築】 ①古代建築 ②中世建築 ③近世建築	
3 学 期	1 2 3	12	第6章 建築の移り変わり	【近代の建築】 ①ヨーロッパ ②アメリカ ③日本 【現代の建築】 ①世界の現代建築 ②日本の現代建築	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	選択科目：建築構造設計	単 位 数	2
履修学年	3学年	使用教科書	建築構造設計（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、構造物の設計に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	構造物の設計について構造物の安全性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	構造物に関する力学的な課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な構造物を設計する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	- 授業への取り組み方 - 小テスト - 提出物 - 発表力 - 出席状況 - 定期考査	- 授業への取り組み方 - 小テスト - 提出物 - 発表力 - 出席状況 - 定期考査	- 授業への取り組み方 - 小テスト - 提出物 - 発表力 - 出席状況 - 定期考査
	授業への取り組み方、小テスト、定期考査、課題提出物、発表力、出席状況、サブテキスト等を総合的に判断して評価する。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4 5	1 3	第3章 部材の性質と応力度	1. 構造材料の力学的性質 ①応力度 ②ひずみ度 ③弾性体の性質 ④許容応力度	【知識・技能】 知識・技術を身につけ、計算能力・応用能力を活用している。 【思考・判断・表現】 解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断・創意工夫し表現する能力を身につけている。 【主体的な態度】 実際に活用しようとする創造力や実践的な態度を身につけている。
	6 7	1 4	第3章 部材の性質と応力度	2. 断面の性質 ①断面一次モーメント ②断面二次モーメント ③断面係数 ④断面二次半径	
2 学 期	9 10	1 3	第3章 部材の性質と応力度	3. 部材に生じる応力度 ①曲げモーメント ②引張力 ③圧縮力	
	11 12	1 6	第3章 部材の変形と応力 第4章 不静定構造物の部材に生じる力	1. 梁の変形 ①たわみとたわみ角 1. 不静定梁	
3 学 期	1 2 3	1 4	第4章 不静定構造物の部材に生じる力	2. 不静定ラーメン	

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築施工	単 位 数	2
履修学年	3 学年	使用教科書	建築施工(実教出版)	履修年度	令和7 年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の施工に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築物の施工について安全性や環境への配慮を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	建築物の施工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	安全で安心な建築物を施工する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業中の観察 ノート・課題プリント 定期考査	授業中の観察 ノート・課題プリント 定期考査	授業中の観察 ノート・課題プリント 定期考査
	建築施工に対する興味関心・意欲などを確認テスト、ノート提出、課題プリント提出により判断します。授業中の取り組み姿勢（授業に必要な物品の整理整頓なども参考にします）。以上を踏まえて、定期考査の結果と併せて総合的な評価をします。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。 また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	15	第6章 鋼構造の工事	1. 基礎 2. 骨組（柱と梁） 3. スラブ	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解し実務的な技能を活用し、表現することができる。
	5		第6章 鋼構造の工事	4. 耐火被覆 5. 仕上げ	
2 学 期	6	16	第7章 建築物の保全	1. 建築物の維持保全のあらまし 2. 建築保全の分類と考え方 3. 各部の維持保全	【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。
	7		第8章 解体工事と環境保全	1. 解体工事 2. 環境保全 ◆2級建築施工管理技術検定試験の対策	
	9	8	第9章 建築の業務	1. 工事契約 2. 現場組織の編成 3. 施工計画と施工管理	
3 学 期	10		第10章 建築工事費の算出	1. 積算あらまし 2. 積算の種類と方法 3. 工事費の積算方法 4. 建築工事内訳書	【主体的な態度】 実際に活用するための創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	11	9			

教 科	工業（建築技術科）	科 目	必修科目：建築法規	単 位 数	2
履修学年	3 学年	使用教科書	建築法規（実教出版）	履修年度	令和7年度
科目の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の計画、設計、施工及び管理に必要な資質・能力の育成を目指す。				

評価 規 準	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
	建築関係法規について法的な側面から建築物の安全性や快適性を踏まえて理解するようにする。	法的な側面から建築物に関する課題を発見し、技術者として法的な根拠に基づき解決する力を養う。	安全かつ安心な建築物を計画、設計、施工及び管理する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価 方 法	授業の取組状況 小テスト 定期考査の結果 ノートの提出状況	授業の取組状況 小テスト 定期考査の結果 ノートの提出状況	授業の取組状況 小テスト 定期考査の結果 ノートの提出状況
	定期的に授業の課題の提出を求める。 その他、定期考査・ノートも考慮して総合的に判断する。 課題及については授業中に完成しない場合、家庭学習にて完成させ提出すること。また、未提出の場合は単位の認定を認めない。		

学期	月	時数	単 元	学 習 内 容	評 価
1 学 期	4	25	I 建築法規のあらまし	1 建築法規の起源 2 建築基準法の意義 3 法規の体系と建築基準法の構成 4 建築基準法の用語と面積算定	【知識・技能】 基礎的な知識と技術を理解している。 【思考・判断・表現】 自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身につけようとしている。 【主体的な態度】 意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身につけようとしている。
	5				
	6		II 個々の建築物に関わる規定	1 一般構造についての規定 2 建築設備についての規定 3 構造強度についての規定 4 防火と避難についての規定	
2 学 期	9	31	III 良好な都市環境を作るための規定	1 都市計画法と建築基準法 2 土地利用 3 道路と敷地	
	10				
	11			4 密度に関する規定 5 形態に関する規定 6 良好なまちづくり	
3 学 期	1	14	IV 各種の関係法規	1 企画段階にかかわる法規 2 設計と工事段階に関わる法規 3 その他の法規	
	2				
	3				